

Report

日本大学ランキングは 高校でどう使われているのか

2017年に初めて発表されたTHE世界大学ランキング日本版。高校の進路指導の現場では、どの程度認知され、具体的にどう活用されているのか？ 近年の進路指導の変化と併せて解説する。

ポスター掲示に加え 指導に生かす高校も

THE世界大学ランキング日本版（以下、日本版）が誕生してからまだ1年程度ですが、高校の教育現場では徐々に認知が拡大しています。ベネッセコーポレーションが高校教員を対象に実施した調査によれば、ランキングポスターを校内に掲示している高校は2017年6月時点で約23%。ランキングの発表から3か月程度しか経っていないことを考慮すれば、高い数値と言えるでしょう。加えて、同年11月の時点で高校教員の約70%が「日本版を」知っている」と回答しており、ポスターを掲示するだけでなく、すでに4.2%の教員が日本版を「指導・校内資料に生かしている」、6.6%が「話題にした」と回答しています。今後、回を重ねることに

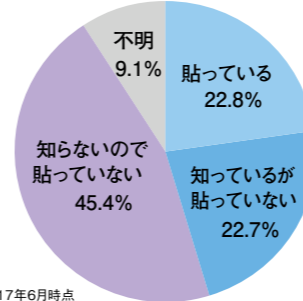
高校の進路指導は「探究型」にシフト

認知が広まり、指導に活用する高校が増えていくと予想されます。今、高校の進路指導は、将来の職業を基に進学先を検討する「職業逆算型」から、社会と自分のつながりを深く考えたうえで進学先を絞り込む「探究型」へとシフトしつつあります。というのも、激しい変化が見込まれるこれからの社会では、変化に柔軟に対応しながら自分のキャリアを築いていくことが求められるからです。このように進路指導が「探究型」へと転換するに伴い、大学で学ぶことを高校生により意識させるため、大学を、①より広く②より深く③より早く研究する指導が重視されてきています。

①の背景には、高校生の地元志

日本版2017発表直後、5校に1校がポスターを掲示

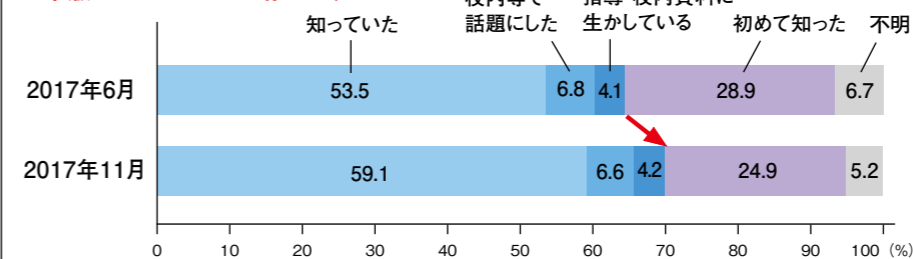
【質問】THE世界大学ランキング日本版2017のポスターを活用していますか？



高校では、偏差値ポスターと並べて日本版ポスターを掲示。

日本版に対する高校教員の認知は徐々に広がっている

【質問】THE世界大学ランキング日本版2017についてご存じですか？



*2017年ベネッセコーポレーション調べ。高校教員対象。N=4214



(株)ベネッセコーポレーション 初等中等教育事業本部 教育情報センター長 渡邊慧信

わたなべ けんじ ● 高校教育や大学入試に関する調査・分析を基に、全国の高校に対して、生徒の成長や自己実現につながる情報提供・指導の提案を行っている。

高校の進路指導は、より広く、より深く、より早くへ

	Before	After	大学に求められること
①より広く	地元大や偏差値の高い大学に注目	教育や研究に特色がある大学に注目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 教育や研究について、大学としての特色を打ち出す ▶ 高校生を大学のファンにする
②より深く	情報収集型の大学調べ	仮説検証型の大学調べ	▶ 大学の魅力をエビデンスを示して伝える
③より早く	学部・学科を調べてから大学を調べる	まず大学そのものを調べ、研究する	▶ 大学で学ぶ意義が高校生に伝わるように3ポリシーを工夫し、認知してもらう

向があります。探究活動を通して将来に対する視野を広げても、進学先を地元限定してしまうと、地元大学の学部・学科の枠内で進路を考えるようになります。ここでは探究活動で得た気づきを進路選択に生かしくくなります。そのため、大学選びの視野を広げ、地元以外の大学にも目を向けさせるツールとして日本版を活用しているとの声を高校教員から聞くことがあります。

②の「より深く」に関しては、大学の魅力を高校生が自分の言葉で語れるように、大学調べに探究活動の手法を取り入れる試みが挙げられます。この背景には「偏差値だけで大学を選んでほしくない。大学を深く知り、自分のやりたいことを実現できる進学先を見つけたい」との高校教員の思いがあります。日本版の分野別スコアに着目し、その背景にある大学の取り組みについて仮説を立て、実際にオープンキャンパスなどで検証させようと考えている高校もあります。

③のように大学研究の時期が早まっている理由の一つには、「フラットな視点で大学を見て、大学で学ぶ意義を考えてほしい」との高校教員の考えがあります。受験が近づくにつれ、高校生が偏差値

で進学先を考える傾向は強まっています。そのため、1年次の早い時期から、教育・研究の場としての大学を意識付けようとしているのです。日本版のポスターが低学年の生徒でも目に付きやすい廊下などに掲示されているのは、こうした意図があるからでしょう。中には高校入学直後から大学のアドミッシヨンポリシーを研究することで、卒業までに身に付ける力を意識させている高校もあるくらいです。

エビデンスに基づいた情報発信が求められる

このような高校の進路指導の変化に対して、大学にはどのような対応が求められるのでしょうか。一つは、地元以外の大学に目を向けている高校生に自学の特色を伝え、自学のファンにする努力が重要でしょう。また、大学研究をより深く行うようになっていきますから、自学の強みを、エビデンスをしっかりと示しながら伝えていくことも求められます。

また、大学で学ぶ意義を考えさせる指導の中で、高校生に自学の学びを印象づけるため、3つのポリシーを工夫し、認知させる必要もあるでしょう。